

学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

| | | | |
|-----|---------|------------------|-----|
| 学校名 | 茅ヶ崎高等学校 | 課程・学科 教育部門・学部 | 全日制 |
|-----|---------|------------------|-----|

1 学校のミッション

○全日制の課程学年制普通科を設置する高校（インクルーシブ教育実践推進校）として、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえ、すべての生徒が共に学び、相互理解を深める教育を推進する中で、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるよう、学力の育成、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。

○生徒の多様な教育ニーズに対応しながら、互いの個性を尊重し共に生きることの大切さを学ぶ機会を設ける等、生徒に主体的な進路選択及び決定の能力を身に付けることをめざした教育に取り組む。

○共生社会の実現をめざし、知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会を広げながら、教育課程や進路支援の研究開発、実践に努め、共に学び合う学習活動を展開するなど、生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした不断の授業改善の実施等、教育活動の充実に取り組む。

2 学校教育目標

○知性を啓発し、豊かな教養を育む。

○身体を鍛錬し、体力の充実をはかる。

○自主性に富み、意志強固な実践力を養う。

○互いの個性を尊重しながら、共に生きることの大切さを学ぶ。

○自立の精神を重んじ、社会性を育成する。

3 計画策定時点での課題

○インクルーシブ教育の一層の推進に向けて、T Tによる授業展開について継続的に研究する必要がある。

○ICTを活用した授業展開を研究し、生徒が主体的に学ぶ意欲を高めることができるよう、授業改善に取り組む必要がある。

○多様な生徒に適切な支援が行えるよう、専門職との連携を図りながらより良い支援体制の在り方を模索する。

○生徒に主体的な進路選択及び決定の能力を身に付けさせるために、生徒・保護者への情報発信の充実をさらに工夫する。

○地域から期待される学校の在り方を改めて検討し、無理なく持続できる活動を推進する必要がある。

○増大する教育課題を整理し、業務改善を進め、効率的な学校運営を推進する。

4 4年間の目標と主な方策

| | 視点 | 4年間の目標 | 目標達成に向けた主な方策 |
|---|--------------|--|--|
| 1 | 教育課程 学習指導 | 多様な生徒の進路希望実現を目指し、生徒に求められる資質・能力を育むために、組織的に授業の工夫・改善に取り組む。 | 新教育課程の実施により、総合的な探究の時間の充実を図ると同時に、T Tによる授業展開を研究し、I C Tを活用した授業改善を図る。 |
| 2 | 生徒指導・支援 | 互いの個性を尊重し、共に生きることの大切さを学ぶことができる生活態度の育成と組織的な教育相談体制の確立をめざした学校づくりを推進する。 学校行事の推進と部活動の活性化をはかり充実感の育成につながる継続的な支援体制整備に努める。 | 日常の様々な場面での指導を組織的に行うと同時に、S C・S S W等との連携の充実を図る。 各行事の実行委員会の充実をはかり、部活動加入率をあげるために生徒会執行部での働きかけを促進する。 |
| 3 | 進路指導・支援 | 生徒一人ひとりが共生社会に生きる将来の自分の姿をイメージし、進路選択及び決定の能力を身に付けることができるように、組織的・体系的に指導や支援を行う。 | キャリアパスポートを活用し、見通しを持った進路選択に取り組む。 進路ガイダンスや各種講演会を適宜実施し、就職や進学指導に生かす。 インターンシップや仕事のまなび場、高大連携事業などへの参加を促し、主体的に進路選択できるよう指導する。 |
| 4 | 地域等との協働 | 地域住民と協働で活動する機会を通して、様々な課題を発見し解決する意識と知識を高め、地域の将来を担う人材を育成する。 | 学校や地域の行事、地域貢献活動やボランティア活動を通して、社会貢献意識や地域への愛着、コミュニケーション力及び社会への理解の促進を目指す。 |
| 5 | 学校管理 学校運営 | 効率的な学校運営を推進し、各グループの業務内分担を見直すなど業務改善に取り組むとともに、安全安心な教育環境の整備及び事故不祥事防止ゼロを目指す。 | ・I C Tを活用し校務の効率化を行うと同時に、報告・連絡・相談を適切に行うなどして情報を共有して事故不祥事防止を図る。 |